

岡 博文 中磯 真実 三宅 一

小松島赤十字病院 脳神経外科

要 旨

悪性脳腫瘍が出血をきたすことは時に経験されるが、髄膜腫が出血を伴うことはまれとされている。今回我々は腫瘍内出血をきたした髄膜腫の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。

症例は48才の女性。平成10年10月25日頭痛を訴えた後、屋内で倒れている所を発見され救急車で来院した。来院時意識は半昏睡で左瞳孔散大、対光反射消失、右半身麻痺、右除脳硬直を認めた。頭部CTにて左前頭葉、側頭葉に著明な圧排を伴う出血を認め、その周囲はリング状に造影された。髄膜腫からの出血と判断し緊急手術を行なった。硬膜を切開すると少量の硬膜下血腫がありこれを除去したところ、被膜に包まれた赤色の腫瘍を認めた。腫瘍は壊死状で柔らかく、一部に血腫を含んでいた。脳との境界は明瞭であり摘出は容易であった。術直後より意識レベルの改善がみられ、12月14日動眼神経麻痺による複視と右上1/4盲を残し退院した。

キーワード：髄膜腫、腫瘍出血

はじめに

悪性グリオーマや転移性脳腫瘍では時に頭蓋内出血をきたすことがあるが、良性腫瘍である髄膜腫に出血を伴うことはまれとされている。今回我々は腫瘍内に出血をきたし、意識障害が高度であったにもかかわらず緊急手術にて良好な経過を得た1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

症例は48才の女性で、家族歴、既往歴に特記すべきことはない。最近肩、首の痛みを時々訴えていた。また家人が記憶力が悪くなったことを指摘していた。平成10年10月25日朝より頭痛があり、薬局で鎮痛剤を購入し、服用した。午後6時頃トイレの前で倒れているのを家人に発見され救急車にて来院した。来院時意識は半昏睡で瞳孔不同あり。対光反射は左側で消失し、右半身麻痺、右除脳硬直を認めた。来院時の単純CTにて左前頭葉、側頭葉に出血と思われる高吸収域を認め、周囲に等吸収域の部分があり、著明な脳の圧排、正中偏位を認めた。造影CTでは等吸収域の部分はリング状に著明に造影された。造影効果のある腫瘍外壁

部分の内側に出血があり、壊死と思われる低吸収域が混在していた(図1)。患者の年齢、性別、発症様式、CT所見から髄膜腫からの出血と判断した。瞳孔不同、除脳硬直がみられることから切迫脳ヘルニアの状態と判断し、脳血管撮影は行わずただちに緊急減圧開頭術を行なった。硬膜を切開すると少量の硬膜下血腫がありこれを除去したところ、被膜に包まれた赤色の腫瘍を認めた。被膜の一部が破綻しており、この部分から血液が漏出し硬膜下血腫を伴ったものと考えた(図2)。組織採取のため腫瘍の一部を腫瘍鉗子にて摘出したところ、腫瘍は壊死状で柔らかく、出血もさほどみられないため、5mmの吸引管にて腫瘍の大部

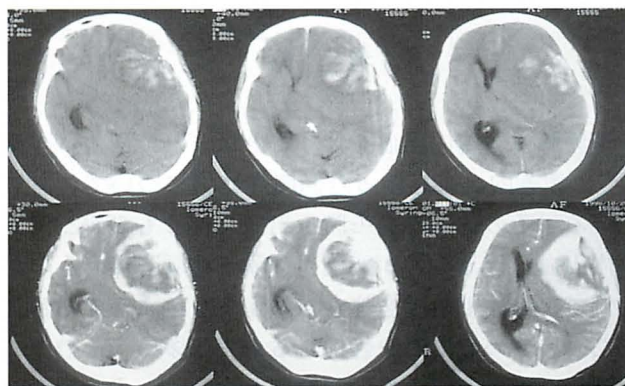


図1 術前CT(上段単純、下段造影)

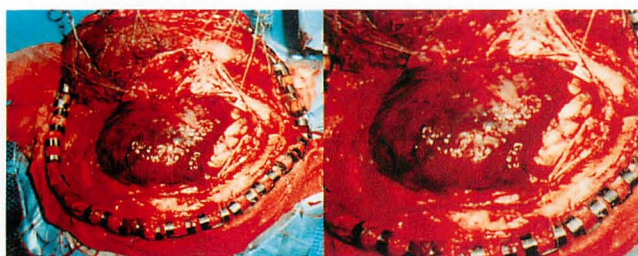


図2 術中写真

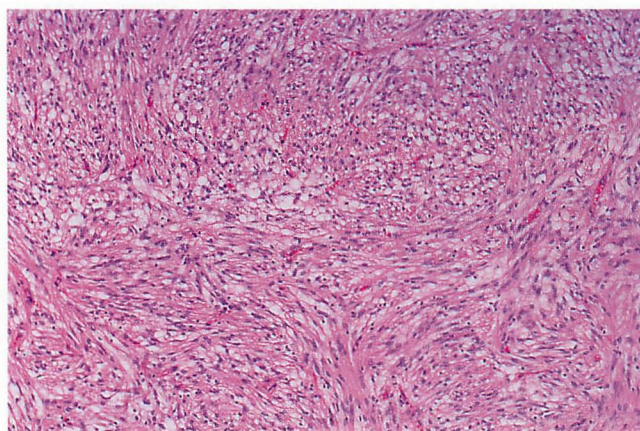


図3 病理組織像

分を吸引除去した。腫瘍と脳との境界は明瞭で比較的容易に摘出可能であった。腫瘍の附着部は蝶形骨縁にありこの部分を凝固止血した。CT所見と同様に腫瘍附着部の近辺に凝血塊が多く存在した。腫瘍の摘出が容易であったため2時間で手術を終了した。組織は紡錘形細胞の束状配列を認め、fibroblastic typeの髄膜腫と診断された(図3)。術直後より意識レベルの改善がみられ、10月27日には瞳孔不同の消失、麻痺の改善を認めた。28日に意識は清明で、会話も正常となり、12月14日動眼神経麻痺による複視と右上1/4盲を残し退院した。その後症状は回復し、現在神経学的欠損症状、腫瘍の再発なく外来通院中である。

考 察

髄膜腫に頭蓋内出血を伴うことはまれである。吉岡ら⁽¹⁾は頭蓋内出血を伴った髄膜腫43例について検討している。その内訳はクモ膜下出血を伴うものが23例、脳内出血を伴うものが20例、硬膜下血腫を伴うものが13例で、硬膜下血腫を伴うものが少ないようである。またおのおの出血を合併するものが多く、その中でも腫瘍内出血を伴うものは14例と少なく、また腫瘍内出血のみであったものはわずか3例であった。

佐藤ら⁽²⁾は急性硬膜下血腫を伴った髄膜腫16例について検討している。男女比は7:3で年齢は37から72才であった。初発症状は頭痛が多く、好発部位は円蓋部である。腫瘍の組織型はmeningotheliomatous typeが多く、予後はmortality 38%、morbidity 23%と不良である。

徳永ら⁽³⁾によれば髄膜腫による頭蓋内出血の原因としては従来以下のような機序が考えられている。

1. 頭蓋内の異常血管の破綻により頭蓋内出血が周辺に波及する場合。
2. 腫瘍の成長、増大が近接する髄膜、脳実質、静脈洞を圧排し二次的な梗塞性出血をきたす場合。
3. 腫瘍を栄養する動脈の破綻による出血。
4. 抗凝固剤の使用や頭部外傷、高血圧症などの複数の因子が関与する場合。

本例ではまず腫瘍内に出血がおり、その出血が増大することにより腫瘍被膜の破綻をきたし硬膜下血腫をきたしたと考えられた。腫瘍内出血をきたす原因としては上記機序の1および3が考えられるが、本例においてはその可能性は少ないと考えた。

前述の徳永らは円蓋部髄膜腫に腫瘍内出血と一部硬膜下血腫をきたした一例を報告している。その症例では腫瘍の硬膜附着部付近に凝血塊があり、また出血巣周辺に壊死が認められ、本例とよく似通っている。その症例の出血の機序については腫瘍内壊死の存在が血管支持組織の脆弱性を来した結果、血管の破綻、出血を起こしたものと推測している。われわれの症例も徳永らの症例と酷似しており、かれらの推測を支持するものと考えられた。

おわりに

腫瘍内出血のため重篤な状態であったにもかかわらず、緊急手術を行ったことにより良好な経過をとった一例を報告し、若干の文献的考察を行なった。

文 献

- 1) 吉岡宏幸, 鮎川哲二, 加藤幸雄, 他: 脳内出血で発症し急激な転帰をとった髄膜腫の1例. 脳神経外科 23: 79-84, 1995
- 2) 佐藤清貴, 菅原孝行, 藤原 悟, 他: 急性硬膜下出血で発症した小脳髄膜腫の1例. 脳神経外科

A Case of Sphenoid-Ridge Meningioma Induced by Intratumor Bleeding

Hirofumi OKA, Mami NAKAISO, Hajimu MIYAKE

Division of Neurosurgery, Komatsushima Red Cross Hospital

Although we sometimes experience bleeding from a malignant tumor, it is said to be rare that meningioma complicates bleeding. In the present study, we report our experience of a case of meningioma with intratumor bleeding together with some reviews of references.

The patient was a 48-year-old woman. She was found lying outdoors after complaining headache on October 25, 1998, and brought to our hospital by an ambulance. She was semi-conscious at the time of coming to the hospital and showed the left mydriasis, absence of light reflex, the right hemiplegia and the right decerebrate rigidity. The head CT revealed bleeding with distinct mass effect in the left frontal lobe and temporal lobe, and ring images in the vicinities. It was judged as the bleeding from meningioma, and an emergent operation was performed. Incision of the dura mater showed a small subdural hematoma, and removal of this showed a red capsulated tumor. The tumor was necrotic and soft and included hematoma in part. The boundary with the brain was clear and excision was easy. The consciousness level improved immediately after the operation, and the patient was discharged from the hospital on December 14, leaving ambiopia and the right quarter blindness due to oculomotor nerve paralysis.

Key words: meningioma, tumor bleeding

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 6: 107-109, 2001
